

日本精神保健社会学会

2024 年 10 月 31 日

THE JAPAN ASSOCIATION OF

事務局：東京都豊島区西池袋 2-39-8

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上

ニュースレター第 82 号

TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240

発行人：山口 豊 編集人：塩谷育子

E-mail:murakami@t-mental.co.jp

第 30 回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ

大会テーマ：『痛みを和らげるケアを協働する社会』

会員の皆様には、日ごろより学会活動の運営にご協力頂き、心よりお礼申し上げます。

今年度の学術大会・総会も引き続きオンラインでの開催となります。今年の大会テーマは『痛みを和らげるケアを協働する社会』です。参加される皆様とともに、学び、考え、語り合う 1 日になりましたら幸いです。

●開催日時：2024 年 11 月 23 日（土）祝日 10 時 00～17 時 00 分

大会テーマ：痛みを和らげるケアを協働する社会

①基調講演 宗像 恒次 日本精神保健社会学会名誉会長

（筑波大学ベンチャー株式会社 SDS 代表、筑波大学 名誉教授）

②シンポジスト

○ 設楽由香 エンドオブライフ・ケア協会

○ 丹野智文 おれんじドア

○ 綿貫良彦 綿貫カウンセリング事務所

○ 笹原恭子 渋谷介護サポートセンター

●ツール：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催

●参加申込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）にて、

氏名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、お申込みください。

●参 加 費：一般 4,000 円、学会員 3,000 円、学生 2,000 円

●参加振込み：2024 年 11 月 13 日（水）までにお振込みください。

振込名には、個人名および「参加費」とご記載ください。振込み確認後、学術大会・総会前日までに、招待メールをお送りします。運営の都合上、当日での参加はできませんので、ご理解とご協力をお願い致します。

●振 込 先：ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

★研究発表の募集を締め切りました★

シンポジウムのご案内

今回は、それぞれの立場で活動をされておられます先生方をシンポジストとしてお招きしました。ファシリテーターは、本大会実行委員長、鈴木 裕子（千代田区保健福祉部在宅支援課）が行います。当日のシンポジストの要旨をご紹介します。

○設楽 友香

したらカウンセリングサービス（公認心理師/千葉県スクールカウンセラー/
エンドオブライフ・ケア協会ファシリテーター及び認定講師）

テーマ：苦しんでいる人は、わかってくれる人がいるとうれしい

私はスクールカウンセラーとして働いている。友人関係、いじめ、親子関係、学習や進路問題だけでなく、自傷行為やオーバードーズ、自殺、虐待（性的・身体的・精神的）、ヤングケアラー問題など、様々な苦しみと直面している子どもたちと日々向き合いながら、彼らに対して自分にできることは何かを考え続けている。子どもだけでなく、保護者や教職員もまた苦しんでいる。現代社会には多種多様な苦しみがたくさんある。残念ながら私はそのすべてを解決することはできない。

「苦しんでいる人は、わかってくれる人がいるとうれしい」エンドオブライフ・ケア協会が援助の基本としているこの言葉から始めると、私にも何かできるのではないかと考えた。苦しむ人を前にして、私が唯一できることは、その人の話を聴くことである。自分がききたいことを聴くのではなく、苦しむ人が伝えたいことを、私がしっかりとキャッチし、

聴くことから始める。そうすれば、相手から見て、わかってくれる人になれる可能性がある。それは、カウンセラーだからできるのではなく、誰もが自分の身近な人にできる、援助である。全ての人が、誰かのことを思いやり、誰かの優しさを実感できる、この“ユニバーサル・ホスピス・マインド”があれば、たとえ苦しみを抱えていても、穏やかに過ごすことができるのではないか。

○丹野 智文氏

おれんじドア代表、認知症当事者ネットワークみやぎ代表理事

テーマ：認知症とともに生きる

私は大学卒業後、自動車販売会社の営業をしてきました。お客様の顔がわからなくなり、いつも一緒に働いているスタッフの顔や名前もわからなくなり、ストレスかなと思い病院へ行きました。脳神経外科へ行き、広南病院で二週間、大学病院で一ヶ月検査入院をして11年前 39歳の時に若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。診断後はインターネットの悪い情報ばかりに「認知症＝終わり」だと思い不安や恐怖から夜、涙が流れてきました。その後、認知症当事者との出会いにより10年たっても元気でいられることを知りました。私が選んだのは認知症を悔やむのではなく認知症と共に生きるという道です。私は認知症になっても周りの環境さえよければ笑顔で楽しく過ごせることを知りました。そして、認知症と診断された後、薬も必要ですが環境が一番大切だと感じています。私は認知症になっても周りの環境さえよければ笑顔で楽しく過ごせることを知りました。病気をオープンにし、人とつながることで笑顔で過ごすことが出来るようになりました。出来ない事をサポートしてもらいながら出来る事を一緒にするパートナーが私の周りにはたくさん出来ました。「認知症＝終わり」ではなく、認知症になっても新しい人生を作ることが出来ることを知ってもらいと思っています。

○綿貫 良彦

日本精神保健社会学会理事 綿貫カウンセリング事務所

テーマ：一家族介護の体験から痛みを和らげるケアを考える

私が認知症の進んだ実母の最後の4年介護をしました。母は私と妻の住む団地の1階下に居住し、父が他界してから3年間は独り暮らしでした。その間物忘れや火の始末忘れが

重なり、認知症と診断を受けて介護保険の要支援 2 となりました。日常は近所の人や友人と付き合いながら過ごし、私は週末買い物を手伝う生活でした。3 年後、母は胃潰瘍で入院。この入院の間に妻と話し合い、私が一人で母の介護をすることにしました。母は手術後にせん妄状態となり認知症が進み 1 か月半で認知症専門病院に転院、2 年過ごしその間、成年後見人の手続きをして介護付き高齢者施設に入居しました。そして 2 年後、食欲をなくし病院に 3 か月ほど入院して他界しました。臨終の日の朝、病院から連絡を受け、私は朝から添いその日の夕方 5 時に息を引き取りました。享年 89 歳でした。

自分の大変さは、母との関係性であり、自分が引き受けて飲み込むしかなかった。そして忘れて仕事をする。すべて終わった後は、思い出すことを避けていた 6 年間でした。それが今回この機会に何度も振り返り、気づくと今不快感が和らいでいるのを感じています。母は自分にそう話すしかないのだと理解者になった。でも私の本音は聞き続けるのが嫌だった。この本音に向き合い徐々に自己受容できてきて不快感が薄くなってきた、そんな感じでした。

○笹原 恭子

日本精神保健社会学会理事 渋谷介護サポートセンター

テーマ：認知症の方の声にどれだけ耳を傾けてきただろうか

2024 年 1 月、認知症基本法が施行されました。2025 年には認知症の方は、約 700 万人になると予想され、65 歳以上の高齢者の 5 人に 1 人に達すると言われています。一人暮らしの高齢者も急増します。認知症基本法の「7 つの基本理念」の第 1 義には「ご本人、ご家族の意向尊重」があげられています。

長年、居宅介護支援専門員をしてきた経験から、支援している認知症の本人よりも、家族の大変さや対応の困難さを目のあたりにしている事から、家族を優先する傾向があったのではないかと思います。発表ではある例を紹介します。認知症の妻と十分に時間をかけて向き合い、気持ちを聞いていなかったのではないだろうか、改めて考えさせられています。

また日ごろ、デイサービスの職員からデイサービスでの出来事を聞いたり、本人やご家族から発せられることばを聞いたりしながら、互いの痛みが和らげられるようにも思いました。「ケアの協働」ともいえるのではないかと考えます。

理事の現場から ―これまでの自分を振り返る―

○檜垣昌也

(聖徳大学短期大学部)

今年度より、精神保健社会学会の理事としてお仲間に入れていただきました檜垣昌也と申します。

上記本務校所属の教員として主に保育者養成の教育に携わっております。

しかし、主とする研究の領域は、保育者養成ではなく、<ひきこもり>“現象”について多角的にアプローチを試みております。貴重な機会をいただきましたので簡単に自己紹介をさせていただきます。「理事の現場から」というタイトルからは若干“逸脱”するかもしれませんがお許しください。

私の仕事の出発点は介護現場でしたが、<ひきこもり>について関心を持ったのは、高校教員をしてからになります。

私自身は、いわゆる不登校ではなかったため、高校教員となり、初めて不登校の生徒さんと関わりました。勤務校が「中学時代に不登校経験のある生徒に特化したクラスを作ることになり、この不登校経験のある生徒に特化したコースの担当になったことがきっかけです。

高校教員といっても、いま思えば、その主業務は“家庭訪問”でした。日々バイクで生徒さんの自宅を回っていたことが思い出されます。

その時に、部屋から出てこない状態の生徒さん、壁がぼこぼこになった部屋のドアや壁を見て衝撃を受けたことを思い出します。私は、いわゆる熱血教師ではなかったつもりですが、生徒さんからは「体の弱い GTO (笑)」とよばれていたのを思い出します。「先生、これ面白いから見なよ」とエヴァンゲリオンの TV シリーズ (たぶん全話) のビデオテープを持参して、自宅を訪ねてくれた生徒さんもいました。事情で家に住めない生徒さんが私の部屋で家事をしてくれたこともありました (令和の時代にはこんなことはできませんね) そんな生徒さんが亡くなってしまったこともありました。

教員をしながら、「何か違うなあ」「なんかおかしくないか?」といったモヤモヤが募り、“勉強嫌いな高校教員 (笑)” は「勉強したいな」と思うようになり、社会人学生になりました。

その後、不登校の“当事者”が作る NPO の理事・副理事長などでサポートをした後、

地元で八千代<ひきこもり>と共に生きる会を 2007 年に立ち上げ、“居場所”として活動しながら実践的研究をしてまいりました。

また、継続して全国の親の会、NPO、行政の支援活動などを見て回っています。

本学会の諸先輩方に比べなんとも貧弱な経歴ではあります。しかし、研究当初から頑固に変わらないのは研究者としての私の立ち位置です。この山カッコをつける表記もそうですが、私は、<ひきこもり>行為そのものや、<ひきこもり>行為になんらかのアプローチを行いその行為の変化を促すことなどを研究主眼に置きません。

<ひきこもり>者と彼らに関わる人たちを含めた、社会の動きに関心があります（社会問題化の過程）。

精神保健社会学会には、長年自宅を開放し、ひきこもる青年の居場所を提供している NPO 法人道草の家和田ミトリ先生にご紹介いただきました。

入会当初は、和田ミトリ先生の活動をお手伝いさせていただき、実践報告をさせていただきました。和田ミトリ先生のこれまでの活動に感謝をしつつ、私なりの視点で、この<ひきこもり>現象について新たな解釈を提示することが近々の課題です。

今回、これまでの自分を振り返ることができました。また、和田ミトリ先生との出会いに改めて感謝することもできました。

このような機会をいただき感謝申し上げます。微力ではありますが、精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。2023年度の年会費は、2023年10月1日から2024年9月30日の期間です。また、2024年度の年会費は、2024年10月1日から2025年9月30日の期間です。2023年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いいたします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000 円 学生会員 3,000 円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。



日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局 担当：村上

TEL: 03-3986-3220 FAX: 03-3986-3240 E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金：5,000 円

会 費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名：日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
自宅住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
所 属 系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			